

平成27年3月期

決算説明資料

平成27年6月26日



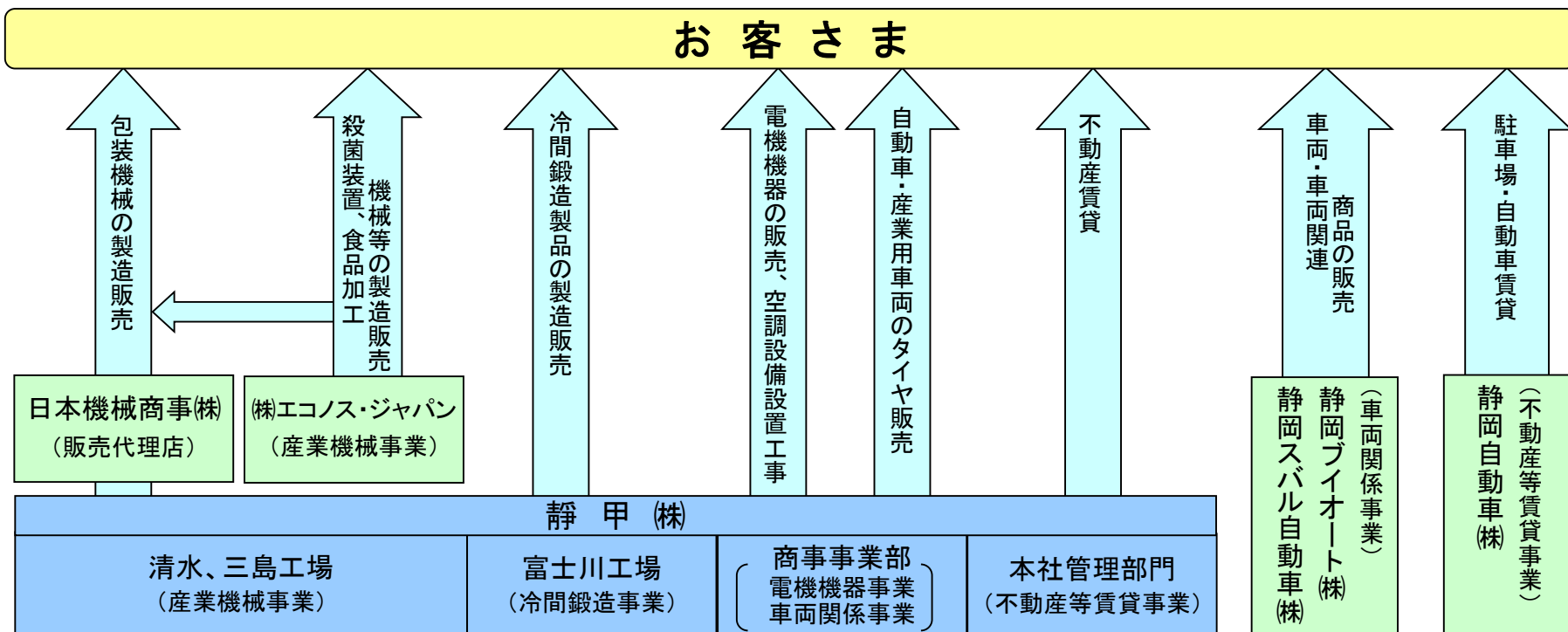
目 次

会社概要	P 1
グループ概要(連結子会社)	2
平成27年3月期 業績の概要(連結)	3 ~ 7
業績の推移(連結)	8
連結財務諸表	9 ~ 12
業績の推移(個別)	13
個別財務諸表	14 ~ 16
トピックス	17

会社概要

会社名	静甲株式会社
設立	昭和14年5月18日
上場市場	大阪証券取引所 J A S D A Q 市場（平成2年10月 上場）
発行済株式総数	6,472,154株（自己株式11,169株を除く。単元株式数 100株）
代表者	取締役社長 鈴木恵子
本社所在地	静岡県静岡市清水区天神二丁目8番1号
資本金	13億3千7百万円
売上高	連結 279億8千2百万円 個別 104億6千5百万円（平成27年3月期）
従業員数	連結 657名 個別 325名（平成27年3月31日現在）
事業内容	<ul style="list-style-type: none">■ 液体自動充填機などの自動包装プラントの製造販売■ 冷間鍛造製品の製造販売■ F A（ファクトリーオートメーション）機器、空調設備、モーター、非常用電源設備、エレベーターなどの総合電機設備機器の販売及び電機・空調設備工事■ 自動車・産業用車両のタイヤ販売
連結子会社	日本機械商事(株)（本社：東京都）、静岡スバル自動車(株)、(株)エコノス・ジャパン、静岡自動車(株)、静岡バイオオート(株)

グループ概要（連結子会社）



■ 連結子会社の状況（平成27年3月31日現在）

会社名	資本金	当社の議決権比率	主な事業内容
日本機械商事株式会社(本社:東京都)	150,000千円	100%	包装機械の販売
静岡スバル自動車株式会社	50,000	100	自動車の販売修理
株式会社エコノス・ジャパン	30,000	100	殺菌装置、食品加工機械等の製造販売
静岡自動車株式会社	16,000	100	駐車場業・レンタカー業
静岡バイオート株式会社	20,000	100	輸入自動車の販売修理

(注) 静岡バイオート株式会社は、静岡スバル自動車株式会社の100%子会社です。

平成27年3月期 業績の概要（連結）

当連結会計年度における我が国の経済は、平成26年4月の消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減がありましたが、政府による経済・金融政策などを背景に企業収益や雇用環境に改善がみられ、緩やかな回復傾向で推移いたしました。しかしながら、個人消費の回復は鈍く、海外景気の下振れによる国内景気への影響が懸念されるなど先行き不透明な状態が続いております。

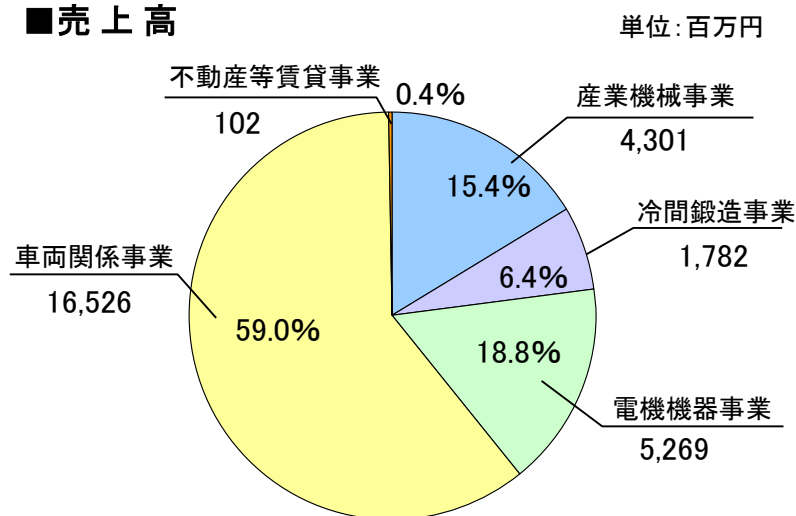
このような経済環境のなか、当社グループにおきましては、「顧客対応力の充実を図る」を方針として掲げ、「人づくり」「仕組みづくり」「ものづくり」の3つを重点課題として定め、各事業において施策を推進しております。

各セグメントの業績につきましては、売上高は、電機機器事業ではビル設備関連で大型案件を売上げることができたため、前年同期の実績を大きく上回りました。一方、車両関係事業は、消費税増税後の反動減を主な要因として登録車全体の販売台数が減少したため、前年実績を下回りました。また、産業機械事業及び冷間鍛造事業は前年同期並みとなりました。

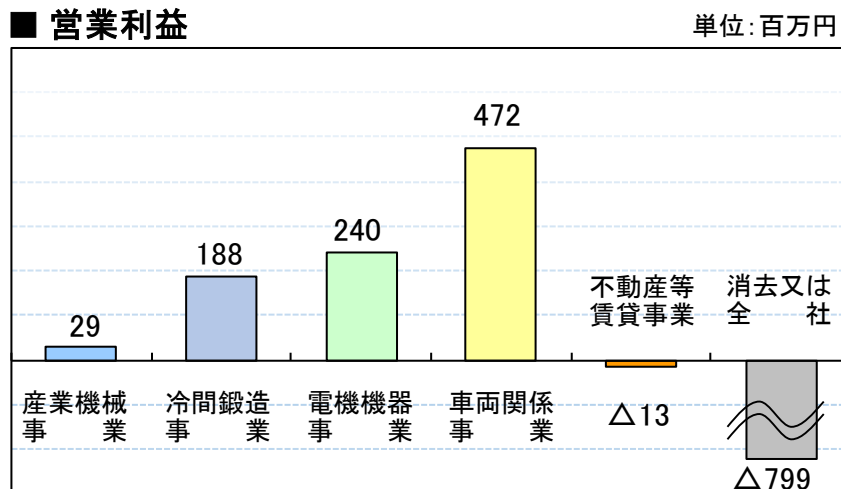
これらの結果、当社グループの売上高は、前年同期比2.4%増の279億8千2百万円となりました。利益面では、電機機器事業の売上高を押し上げた大型案件が低採算であったことや、車両関係事業の減収に加えて、産業機械事業での不具合対応による原価高により、経常利益は前年同期比64.5%減の2億3百万円となりました。また、退職金制度の見直しを行い確定拠出年金制度に完全移行したことに伴う損失や、産業機械事業で製品補償損失を特別損失として計上したことなどにより、当期純損失は1億8百万円（前年同期は2億5百万円の利益）となりました。

セグメント別売上高・営業利益

■売上高



■営業利益



(注)「消去又は全社」は、主にセグメント別に配賦することができない当社の管理部門に係わる費用です。

各事業セグメントの業績

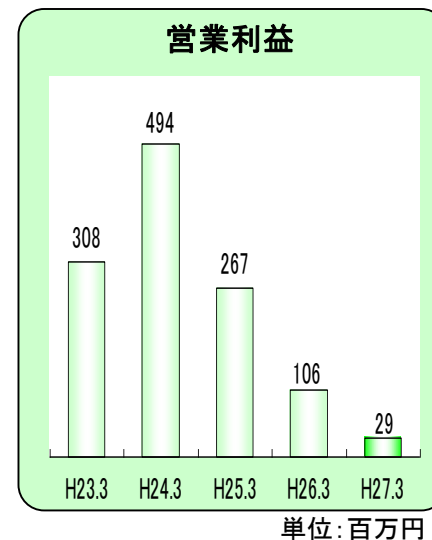
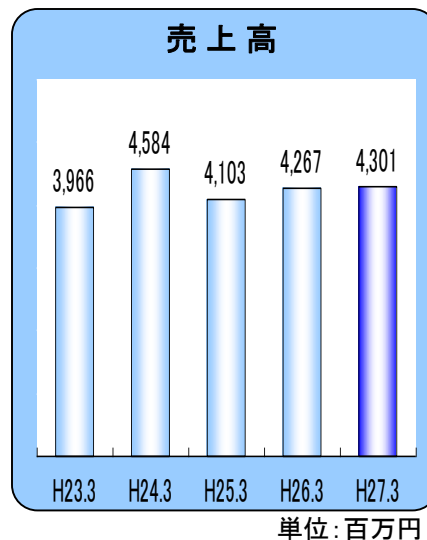
— 産業機械事業 —

業績

主要な販売先である食品業界をはじめとして、設備投資への意欲は増加傾向にあり、小型・中型機の売上は前年実績を上回りましたが、大型機は低調に推移いたしました。また、納入機の不具合対応を最優先に取り組んだことや、一部大型案件の売上が翌期に繰り越しになったことにより、売上高は前年同期比0.8%増の43億1百万円となりました。営業利益は、不具合対応費用の増加により、前年同期比71.7%減の2千9百万円となりました。



ドレッシング充填ライン



対処すべき課題

産業機械事業では、お客さまのニーズに合った製品づくりに努めるとともに、機械の標準化及び技術情報のデータベース化による設計品質の向上に取り組んで品質の高い製品づくりを推進いたします。あわせて営業活動の強化及び保守メンテナンスの拡大による収益確保に取り組んでまいります。

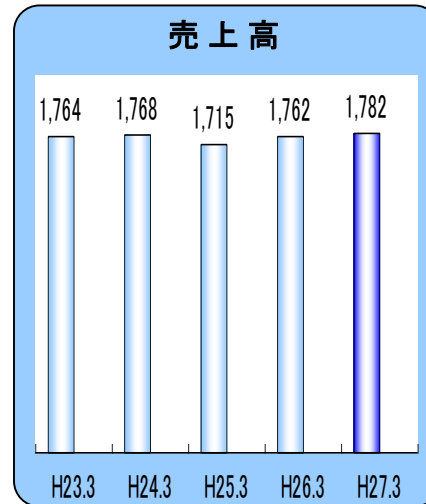
－ 冷間鍛造事業 －

業 績

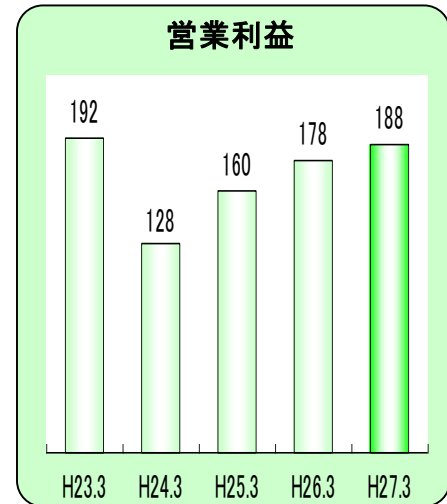
自動車部品は、納入先の北米向け部品の輸出が好調に推移したことに加えて、新規製品の受注により前年同期の実績を上回りました。また、事務機・産業機械部品も前年同期の実績を上回りましたが、電動工具部品は納入先の海外生産移行により一部製品の売上が減少したため、前年同期の実績を下回りました。これらの結果、売上高は前年同期比1.1%増の17億8千2百万円となりました。営業利益は、材料費や金型費の削減などの改善に努めたことにより、前年同期比5.5%増の1億8千8百万円となりました。



新規開発部品(上)および
新規受注の自動車部品等(下)



単位:百万円



単位:百万円

対処すべき課題

冷間鍛造事業では、成形技術の開発による製品の高精度化を進めるとともに、積極的な営業活動による新規ユーザーの開拓や新規製品の受注に取り組めます。また生産工程の短縮や自動化を継続して、生産効率の向上及び原価低減に取り組んでまいります。

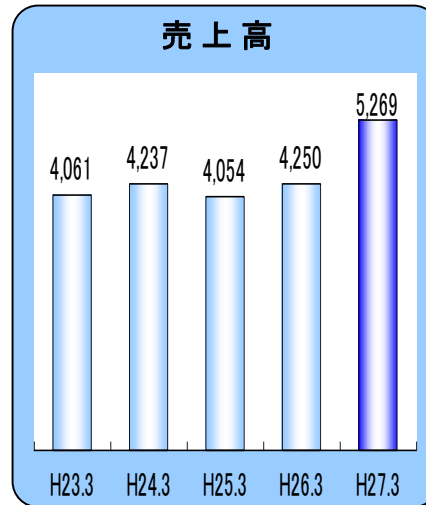
— 電機機器事業 —

業績

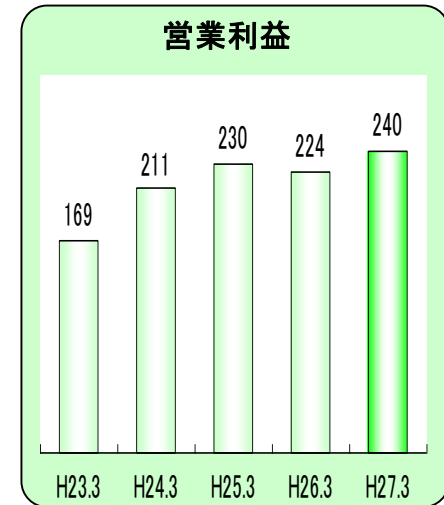
設備機器は、ビル設備機器の大型案件が集中したことを要因として前年同期の実績を大きく上回りました。主力のFA関連機器は、自動車関連と太陽光発電関連の需要が好調に推移したため、前年同期の実績を上回りました。冷熱機器及び空調工事も前年同期の実績を上回ったものの、市況は厳しく伸び悩みました。これらの結果、売上高は前年同期比24.0%増の52億6千9百万円、営業利益は前年同期比7.3%増の2億4千万円となりました。



取扱商品の三菱電機(株)
FA(ファクトリーオートメーション)用制御機器



単位:百万円



単位:百万円

対処すべき課題

電機機器事業では、引き続き製造業を中心としたエンドユーザーへの営業強化と販売店との関係強化に取り組んでまいります。また、新商材の拡販や設備機器関連での工事領域拡大などに取り組んでまいります。

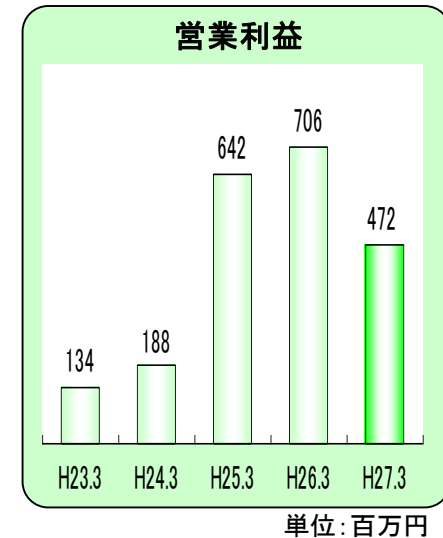
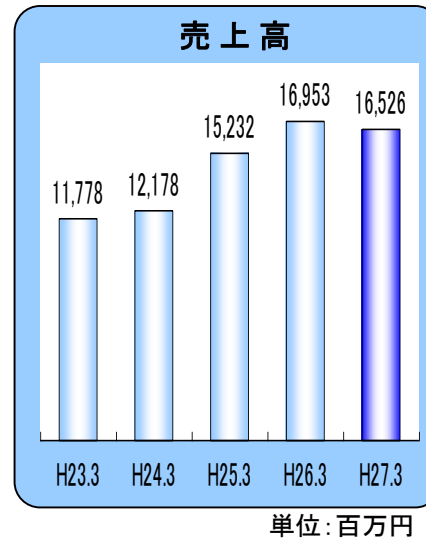
— 車両関係事業 —

業績

新車販売は、消費税増税後の反動減の影響を大きく受けるなか、新型車の投入があったものの既存車種の販売が減少したため、前年同期の実績を下回りました。また、輸入車販売は前年実績を上回りましたが、中古車販売及びサービス部門は減少いたしました。これらの結果、売上高は前年同期比2.5%減の165億2千6百万円、営業利益は、販売促進費の増加もあり、前年同期比33.2%減の4億7千2百万円となりました。



スバル WRX STI



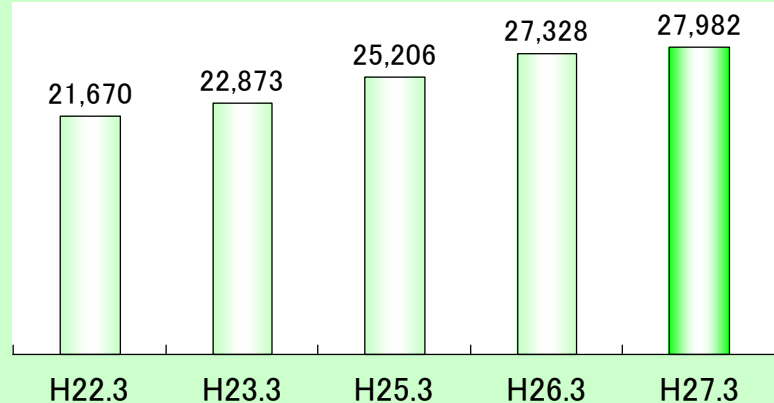
対処すべき課題

車両関係事業では、今後も店舗の再配置による固定費削減など経営効率の向上を進めてまいります。また登録車販売の強化に努めるとともに、サービス部門の収益性向上のため車検台数の確保と作業効率向上に取り組んでまいります。

業績の推移 (連結)

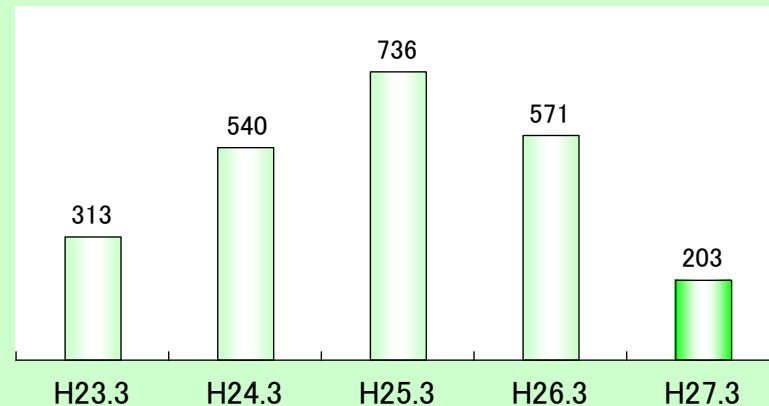
売上高

単位:百万円



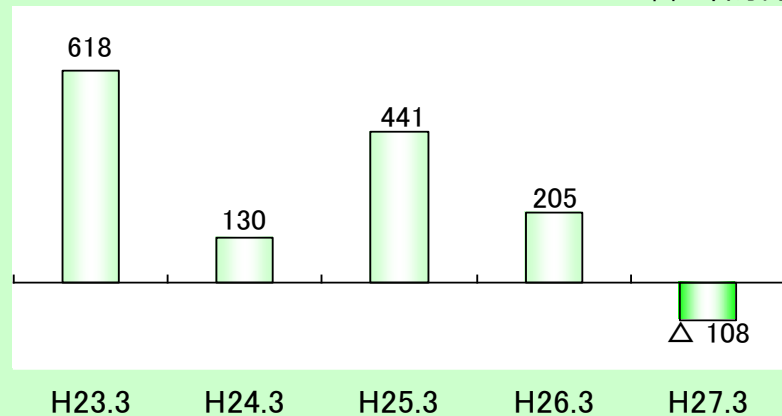
経常利益

単位:百万円



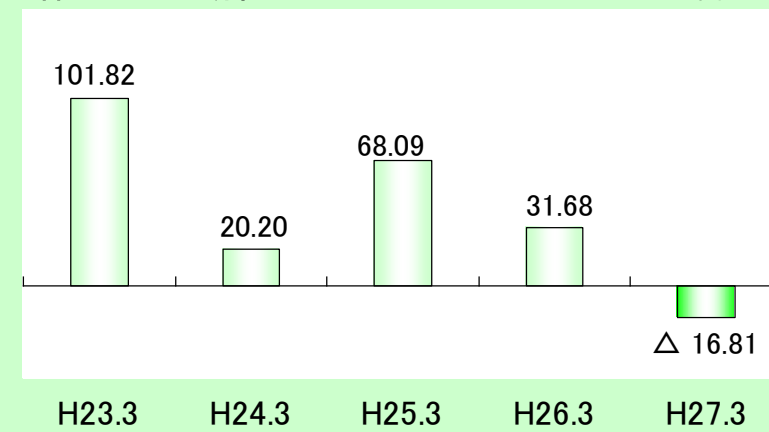
当期純利益

単位:百万円



1株当たり当期純利益

単位:円



連結財務諸表

連結貸借対照表

単位：千円

資 産 の 部			負債及び純資産の部		
	平成26年3月31日現在	平成27年3月31日現在		平成26年3月31日現在	平成27年3月31日現在
流動資産	9,378,988	8,703,776	流動負債	5,318,476	4,940,396
現金及び預金	2,887,623	2,286,803	支払手形及び買掛金	2,953,928	2,832,746
受取手形及び売掛金	4,050,070	4,051,857	そ の 他	2,364,547	2,107,649
たな卸資産	1,915,769	1,794,727			
そ の 他	528,200	573,283	固定負債	1,586,025	1,486,478
貸倒引当金	△ 2,675	△ 2,895	〈負債合計〉	〈 6,904,502 〉	〈 6,426,875 〉
固定資産	10,057,486	10,498,852	株主資本	11,752,964	11,558,840
(有形固定資産)	(7,356,277)	(7,311,520)	資 本 金	1,337,000	1,337,000
建物及び構築物	2,573,300	2,779,159	資 本 剰 余 金	1,833,576	1,833,576
土 地	3,276,745	3,313,557	利 益 剰 余 金	8,588,168	8,394,062
そ の 他	1,506,231	1,218,803	自 己 株 式	△ 5,780	△ 5,798
(無形固定資産)	(234,986)	(242,698)	その他の包括利益累計額	779,009	1,216,913
(投資その他の資産)	(2,466,223)	(2,944,633)	その他有価証券評価差額金	848,450	1,216,913
投資有価証券	2,096,958	2,585,657	退職給付に係る調整累計額	△ 69,441	-
そ の 他	369,264	358,975	〈純資産合計〉	〈 12,531,973 〉	〈 12,775,753 〉
資産合計	19,436,475	19,202,628	負債及び純資産合計	19,436,475	19,202,628

連結損益計算書

単位：千円

	平成26年3月期	平成27年3月期
売上高	27,328,108	27,982,228
売上原価	22,142,796	22,973,985
販売費及び一般管理費	4,681,101	4,890,880
営業利益	504,211	117,361
営業外収益	113,832	130,191
営業外費用	46,185	44,545
経常利益	571,858	203,008
特別利益	2,392	79,595
特別損失	86,394	181,196
税金等調整前当期純利益	487,856	101,406
法人税、住民税及び事業税	244,753	199,210
法人税等調整額	37,930	11,008
当期純利益	205,172	△ 108,811

連結株主資本等変動計算書 (平成27年3月期)

単位:千円

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成26年4月1日 残高	1,337,000	1,833,576	8,588,168	△ 5,780	11,752,964
会計方針の変更による累積的影響額			18,259		18,259
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,337,000	1,833,576	8,606,428	△ 5,780	11,771,224
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△ 103,554		△ 103,554
当期純利益			△ 108,811		△ 108,811
自己株式の取得				△ 17	△ 17
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額 (純額)					
連結会計年度中の変動額合計	-	-	△ 212,366	△ 17	△ 212,383
平成27年3月31日 残高	1,337,000	1,833,576	8,394,062	△ 5,798	11,558,840

	その他の包括 利益累計額	純資産合計
平成26年4月1日 残高	779,009	12,531,973
会計方針の変更による累積的影響額		18,259
会計方針の変更を反映した当期首残高	779,009	12,550,233
連結会計年度中の変動額		
剰余金の配当		△ 103,554
当期純利益		△ 108,811
自己株式の取得		△ 17
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額 (純額)	437,904	437,904
連結会計年度中の変動額合計	437,904	225,520
平成27年3月31日 残高	1,216,913	12,775,753

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

	平成26年3月期	平成27年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	353,194	1,194,585
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,676,492	△ 1,243,343
財務活動によるキャッシュ・フロー	495,137	△ 544,013
現金及び現金同等物の増減額	△ 828,161	△ 592,771
現金及び現金同等物の期首残高	3,684,385	2,856,224
現金及び現金同等物の期末残高	2,856,224	2,263,453

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、22億6千3百万円であり、前連結会計年度末から5億9千2百万円の資金が減少(前連結会計年度は8億2千8百万円の資金が減少)いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローについては、税金等調整前当期純利益が1億1百万円でありましたが、たな卸資産の減少、減価償却費の計上等による資金の増加、仕入債務の減少等による資金の減少により、11億9千4百万円の資金が増加(前連結会計年度は3億5千3百万円の資金が増加)いたしました。

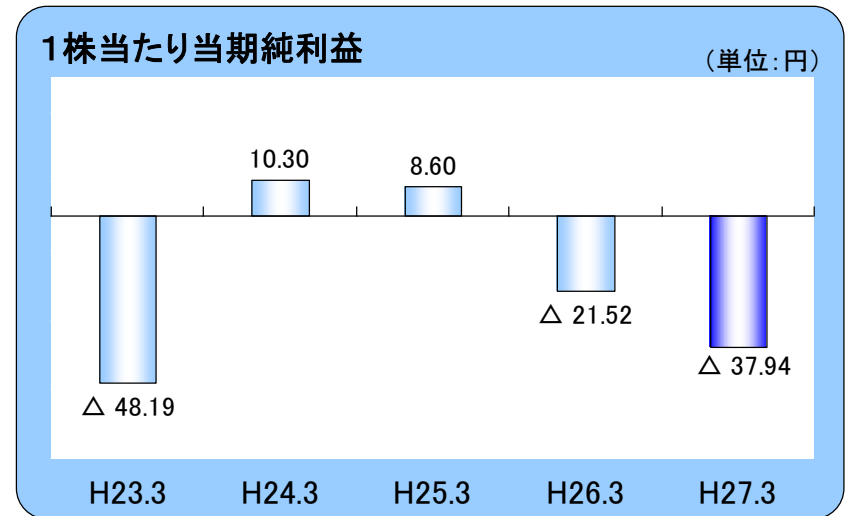
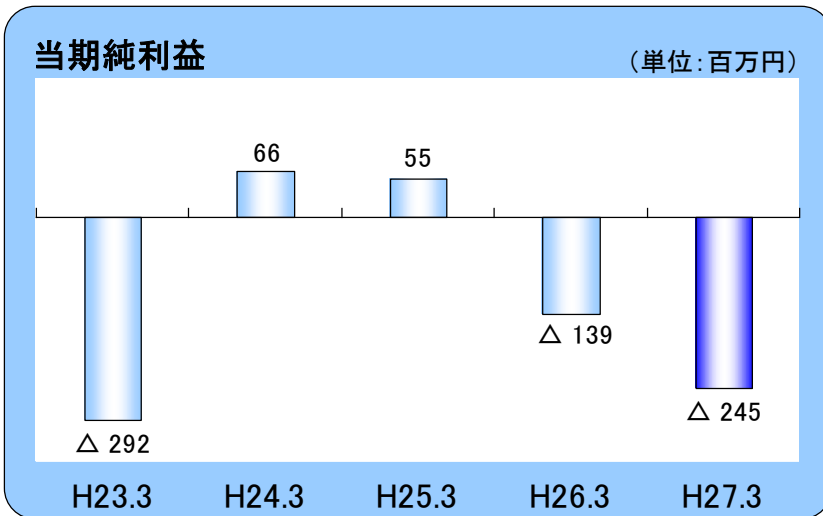
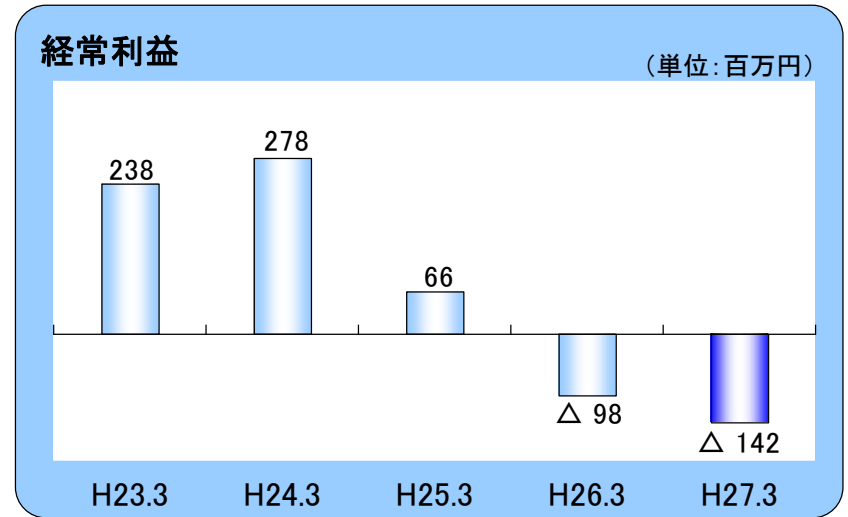
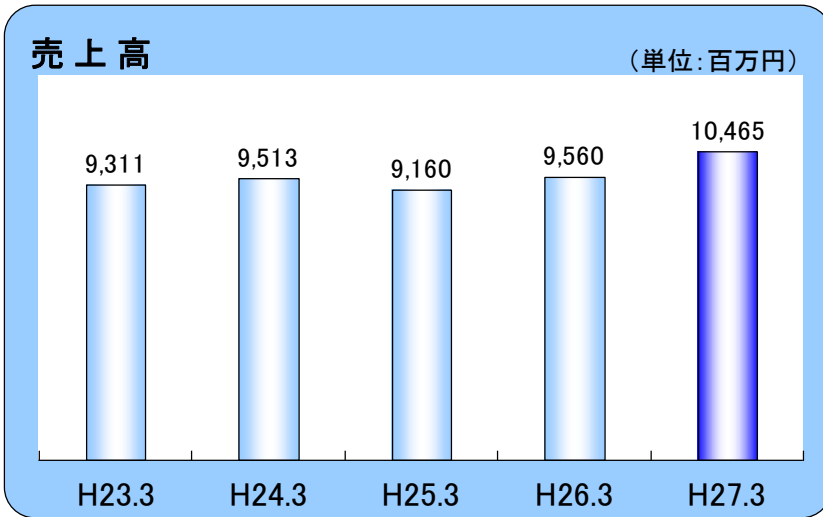
(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローについては、有形固定資産の取得による支出等により、12億4千3百万円の資金が減少(前連結会計年度は16億7千6百万円の資金が減少)いたしました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローについては、短期借入金の返済、長期借入金の返済等による資金の減少等により、5億4千4百万円の資金が減少(前連結会計年度は4億9千5百万円の資金が増加)いたしました。

業績の推移（個別）



個別財務諸表

貸借対照表

単位：千円

資 産 の 部			負債及び純資産の部		
	平成26年3月31日現在	平成27年3月31日現在		平成26年3月31日現在	平成27年3月31日現在
流動資産	4,769,075	4,698,997	流動負債	1,764,227	1,866,322
現金及び預金	907,586	1,101,888	支払手形及び買掛金	1,011,059	894,075
受取手形及び売掛金	2,700,985	2,587,448	そ の 他	753,167	972,246
たな卸資産	902,560	766,327			
そ の 他	260,108	245,405	固定負債	1,136,550	1,096,606
貸倒引当金	△ 2,165	△ 2,072	〈負債合計〉	〈 2,900,777 〉	〈 2,962,928 〉
固定資産	7,533,963	7,585,626	株主資本	8,774,802	8,443,892
(有形固定資産)	(3,041,631)	(2,919,820)	資 本 金	1,337,000	1,337,000
建物及び構築物	1,145,883	1,105,017	資 本 剰 余 金	1,833,576	1,833,576
土 地	1,236,595	1,236,595	利 益 剰 余 金	5,610,007	5,279,114
そ の 他	659,152	578,207	自 己 株 式	△ 5,780	△ 5,798
(無形固定資産)	(220,236)	(229,711)	評価・換算差額等	627,458	877,802
(投資その他の資産)	(4,272,096)	(4,436,094)	その他有価証券評価差額金	627,458	877,802
投資有価証券	1,615,659	1,928,512	〈純資産合計〉	〈 9,402,261 〉	〈 9,321,694 〉
そ の 他	2,656,892	2,507,910			
貸倒引当金	△ 456	△ 328			
資産合計	12,303,039	12,284,623	負債及び純資産合計	12,303,039	12,284,623

損益計算書

単位：千円

	平成26年3月期	平成27年3月期
売上高	9,560,153	10,465,611
売上原価	8,163,733	9,117,488
販売費及び一般管理費	1,629,621	1,661,348
営業利益	△ 233,201	△ 313,225
営業外収益	165,642	204,846
営業外費用	31,201	34,264
経常利益	△ 98,760	△ 142,643
特別利益	751	882
特別損失	41,215	133,007
税引前当期純利益	△ 139,223	△ 274,768
法人税、住民税及び事業税	4,208	6,659
法人税等調整額	△ 4,048	△ 35,830
当期純利益	△ 139,383	△ 245,597

株主資本等変動計算書 (平成27年3月期)

単位:千円

	株主資本					評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成26年4月1日 残高	1,337,000	1,833,576	5,610,007	△ 5,780	8,774,802	627,458	9,402,261
会計方針の変更による 累積的影響額			18,259		18,259		18,259
会計方針の変更を反映した 当期首残高	1,337,000	1,833,576	5,628,267	△ 5,780	8,793,062	627,458	9,420,521
事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△ 103,554		△ 103,554		△ 103,554
当期純利益			△ 245,597		△ 245,597		△ 245,597
自己株式の取得				△ 17	△ 17		△ 17
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)						250,343	250,343
事業年度中の変動額合計	-	-	△ 349,152	△ 17	△ 349,170	250,343	△ 98,826
平成27年3月31日 残高	1,337,000	1,833,576	5,279,114	△ 5,798	8,443,892	877,802	9,321,694

トピックス

■ 第19回機械要素技術展 出展(冷間鍛造事業)

機械要素技術展は、軸受、ベアリング、ねじ、ばねなどの機械要素や、金属、樹脂に関する加工技術を一堂に集めた専門技術展です。

これまで培ってきた当社の精密冷間鍛造技術をより多くのお客さまに知っていただくため、昨年初めて出展し、新規取引に結びつきました。

今年の展示会では、新規開発の内外径スプライン同時成形品、ほか1,300点の量産実績の中から一部製品を展示しました。

●開催期間 平成27年6月24日(水)～26日(金)

●開催場所 東京ビッグサイト



技術を廣き続ける。
それが私たちのスピリット。

内外径スプライン同時成形品



平成26年当社展示ブース

■(株)エコノス・ジャパン 「エコノアクア」Amazonで発売開始

連結子会社の(株)エコノス・ジャパンが、平成26年6月より、「エコノアクア」の発売をネット通販のAmazonで開始しました。エコノアクアは、多くの大手食品工場で高い評価を得ている同社の「炭酸次亜水製造装置」から生成される除菌水の名称です。多くの皆さまにお使いいただきたい思いから商品化し、発売を開始しました。

右図の500mlのほか、50mlのポケットサイズから20Lの大容量サイズまでラインナップを揃えております。



 静甲 SEIKOCO.
株式会社